

持続可能な町内会運営の手引き



ちょーどいい、ちょーないかい。



令和8年9月

帯広市町内会連合会 事務局

1 はじめに

少子高齢化の進行やライフスタイルの多様化などを背景に、町内会加入率の低下や役員の高齢化、コロナ禍以降の活動の停滞など、従来の運営が困難となっている町内会が増えています。特に、行事や役職が多く、役員の負担が大きすぎる、生活スタイルに合わない活動が残っている、若い世代が入りにくく、固定メンバーに頼りがちであるなどの課題が生じています。

一方、地域で安心して快適に暮らしていくためには、地域課題の解決をはじめ、災害時の助け合いや地域の見守りなどを行う身近なコミュニティが必要であり、これからも町内会が果たす役割は大きいものと考えています。

このような中、帯広市では、町内会の負担軽減のため、防犯灯の維持管理や広報紙の配布を市が行うこととしましたが、町内会の役割や意義が薄れ、町内会離れが進むことも懸念されます。

こうした現状を踏まえ、町内会がよりよい地域づくりにつながる自らの活動を持続的に行えるよう、町内会の運営モデルを提示しますので、今後の参考としてご活用いただければ幸いです。

令和8年9月 帯広市町内会連合会 事務局

2 町内会のメリットとは

町内会は、住民同士のつながりを通じて、地域で安心して快適に暮らしていく地域の基盤です。地域課題を住民で支え合うことで、行政だけでは実現できない暮らしやすい地域づくりにつながります。

このため、日頃から顔の見える関係を維持できるよう、無理のない範囲で地域に必要な最小限の活動を継続していくことが、これからの町内会に求められます。

【町内会のおもなメリット】

安心して暮らせる	日頃から顔の見える関係が、災害時や見守りなど、いざという時に助け合える。
子育て・高齢者にも安心	子どもの見守りや地域行事、高齢者への声かけなど、支え合いがある。
地域がきれいになる	公園や道路の清掃、花壇づくりなど、住みやすい環境をみんなで守る。
地域のつながりができる	お祭りやイベントを通じて、近所に知り合いができる。困った時に相談しやすくなる。
地域の声を行政に届けられる	道路、防犯灯、交通安全などの要望を、地域の意見として行政へ伝えやすい。

【町内会加入の勧誘時には】

帯広市では、町内会の負担軽減のため、防犯灯の維持管理や広報紙の配布を市が行うこととしました。そのことにより、町内会のメリットを感じにくくなっているとの意見もありますが、町内会はいざという時に助け合えることが一番のメリットであるものと考えています。

町内会加入の勧誘時には次のような内容を伝えてはいかがでしょう。

Q) 町内会に加入するメリットがわかりません。入らなくても困りません。

A) 町内会に加入することで、お互い顔の見える関係ができ、特に災害時や見守りなど、いざという時に助け合えることが期待できます。

また、近所に知り合いができることにより、困った時に相談しやすくなるなど、地域のつながりができますので、ぜひご検討ください。

3 町内会運営のモデル別の検討

町内会のメリットを踏まえると、今後も町内会を維持していくことがよりよい地域づくりにつながります。

町内会運営を継続させるためにも、地域の実情に応じて、現状を維持していくかスリムにしていくか、自分たちのスタイルを検討してはいかがでしょう。

【町内会運営モデル別概要の一覧】

モデル	モデル A 【現状維持、充実型】	モデル B 【スリム型】	モデル C 【最小限型】
会議	毎月の役員会（対面） （LINE※ ¹ や ZOOM※ ² の活用も検討）	必要な会議のみ （LINE や ZOOM の活用も検討）	必要な会議のみ （LINE や ZOOM の活用）
行事	総会、夏祭り、敬老会、運動会、防災訓練、町内清掃、ラジオ体操など	・総会 ・親睦活動（年 1 回） ・必要な活動	・最小限の必要な活動 （ <u>親睦活動は廃止</u> ）
回覧	月 1 回程度の回覧 町内会だよりの作成	必要時のみ回覧、 LINE 等の検討	必要時のみ回覧、 LINE 等の検討
向いている地域	役員の担い手がいて、 高齢者と若者のバランスが良い地域など	高齢者が多い地域、 概ねどの地域でも	単身世帯・共働き世帯が多い地域など
役員の負担			

※1 LINE ヤフー株式会社が運営する、モバイルメッセージアプリケーション。

※2 ZOOM Zoom ビデオコミュニケーションズが提供する Web 会議サービス。
テレビ会議をパソコン、スマートフォンで行うもの。

モデル A【現状維持、充実型】

(1) 考え方

住民同士の深い交流を通じて「顔の見える関係」を構築するモデルです。

- 住民同士のつながりや防災、防犯体制を崩したくない
- 長年の行事やしきたりへの愛着が強い
- ある程度の役員の担い手と財源が確保できる

(2) 運営方針

①活動内容

総会、夏祭り、敬老会、運動会、防災訓練、町内清掃、ラジオ体操など可能な限りの活動を実施。

②意思決定

月 1 回の定例役員会を開催し、対面での合意形成を重視。
月 1 回、回覧にて会員に周知。

③役員分担

部局制（福祉、青少年、交通、防犯、防災部等）を維持し、専門性を分散。

(3) メリット

- ・災害時の共助体制が非常に強固になる。
- ・地域の活気が維持される。

(4) デメリット

- ・役員や会員の負担が重い。
- ・参加の強制感がある。

モデル B【スリム型】

(1) 考え方

年 1 回程度の親睦活動は残しつつ、全体的な行事の見直しを行い、負担のない範囲で必要な活動のみを残します。

(2) 運営方針

①活動内容（必要な活動 + 親睦活動）

必要な活動と年 1 回程度の焼肉などの親睦行事。

②意思決定

対面の役員会は年 2、3 回程度。LINE や書面決議も検討。

行事のお知らせを含めて、必要時のみ回覧にて会員に周知。LINE も検討。

③役員分担

役職や班の数を減らす。

【例】4 役（会長、副会長、総務、会計）、必要な委員、班長

(3) メリット

- ・負担をやや軽減できる。
- ・会費の値下げを検討できる。

(4) デメリット

- ・少ない役員に負担がやや集中する。
- ・参加の強制感がないため、行事に出席する参加者が少ない。

モデルC【最小限型】

(1) 考え方

「解散」を防ぐことを最優先し、親睦行事を廃止し、生活に直結する必要な活動のみの最小限にするモデルです。

縮小するというより「優先順位をつけて整理する」イメージであり、続ける活動と廃止する活動を話し合います。

(2) 運営方針

①活動内容（親睦活動はやめ、最小限必要な活動のみ）

ごみステーション維持管理、町内清掃など、最小限必要な活動に。

②意思決定

対面の役員会は年1、2回程度。状況に応じてZOOM会議も実施。

日常連絡はLINEを活用。必要時のみ回覧にて会員に周知。

③役員分担

役職や班の数を減らす。

【例】3役（会長、総務、会計）＋班長

(3) メリット

- ・負担を大幅に軽減できる。
- ・共働き世帯や現役世代も役員を引き受けやすくなる。
- ・会費をなくすことや値下げを検討できる。

(4) デメリット

- ・少ない役員に負担がやや集中する。
- ・顔の見える関係が維持しづらい

4 運営手法の検討（参考）

運営手法を検討する際に参考にしてください。

（１）運営手法の比較表

会議の開催回数		
内容	メリット	デメリット
① 定例会を毎月開催	・情報共有が頻繁にできる ・役員間の意思疎通が図りやすい ・地域課題への対応が早い	・役員の負担が大きい ・参加者が固定化しやすい ・仕事や子育て世代が参加しにくい
② 年数回（2～4か月に1回程度）開催	・役員負担を軽減できる ・必要な議題に絞った効率的な運営ができる	・情報共有のタイミングが遅れる場合がある ・課題への対応が後手になることがある
③ 必要時のみ開催	・役員の負担が最小限になる ・活動量に応じた柔軟な運営が可能	・役員間の連携が弱まりやすい ・緊急時の対応体制づくりが難しい
会議の開催方法		
内容	メリット	デメリット
① 対面開催（集合型）	・顔を合わせた交流ができる ・意見交換がしやすい ・地域のつながりづくりにつながる	・会場確保や移動の負担がある ・参加できる人が限られる
② 書面開催（回覧・書面決議）	・参加者の負担が少ない ・時間や場所を選ばない ・多くの世帯へ情報提供できる	・意見交換がしにくい ・内容が一方通行になりやすい
③ オンライン開催（Zoom等）	・移動負担がない ・若い世代や遠方の役員も参加しやすい ・記録を残しやすい	・デジタル機器に不慣れな人への配慮が必要 ・通信環境の差がある
④ ハイブリッド開催（対面＋オンライン）	・参加方法の選択肢が増える ・幅広い世代が参加しやすい	・機器準備や運営が複雑 ・進行方法の工夫が必要
行事の開催		
内容	メリット	デメリット
① 従来型行事を継続（祭り、親睦会、清掃等）	・住民交流の機会になる ・地域への愛着形成につながる ・子どもや高齢者の参加機会になる	・準備する役員の負担が大きい ・参加者が固定化する場合がある
② 行事を縮小・重点化（必要な行事のみ実施）	・役員負担を軽減できる ・継続可能な運営になる ・参加しやすい活動に集中できる	・交流機会が減少する可能性がある ・伝統行事の維持が難しくなる
③ 住民ニーズ型の行事へ転換（防災訓練、子育て交流、高齢者見守）	・現在の地域課題に対応できる ・参加する目的が明確になる ・新しい担い手を得やすい	・企画や調整に新たな負担が生じる ・従来の参加者から理解を得る必要がある
④ 行事を原則廃止し、必要な活動に限定	・役員負担を大幅に削減できる ・最小限の組織運営が可能	・住民同士の交流が減る ・地域のつながりが弱くなる可能性がある

(2) 町内会での進め方の一例

①アンケートの実施

会員が「何を続け、何を変えたいか」を調査する。

②役員で協議

ア) 続けたいこと	【例】 ごみステーションの維持管理、町内清掃、高齢者の見守りなど「やめると困るもの」
イ) やめてもよさそうなこと	【例】 参加者が少ない行事、準備が大変な行事、経費が多くかかる行事など
ウ) 形を変えたいこと	【例】 ・ 行事の頻度を減らす、他団体と共同開催にする、若い世代が参加しやすい時間帯に変えるなど ・ 会費の集金を口座振替などに変える。 ・ 役員の見直しや時代に合わない規約、会則、規定、会費などの見直しをする。

③規約等の改正

役員や会費の変更などがある場合、総会で規約等を改正する。

④資産の整理

行事を廃止する場合、倉庫にある備品（テントや紅白幕など）の処分や管理方法を決める。

5 おわりに

帯広市をはじめ、全国の自治体において「町内会のあり方」は大きな転換期を迎えています。どのモデルが正解ということはありません。いざという時の地域の安心・安全の基盤構築のためにも、日頃から地域における顔の見える関係づくりは重要であり、「10年後もその町内会が存在していること」を最優先に、無理のない形を検討してください。

運営の変更に伴う規約改正の雛形や、ICT（情報通信技術）化の相談は事務局までお気軽にお寄せください。

町内会活動に必要な書類の様式などは、帯広市のホームページからダウンロードできます。

帯広市ホームページ（町内会活動のページ）

<https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/kurashi/chonaikai/katsudo/index.html>



帯広市町内会連合会 事務局

（帯広市 市民福祉部 地域福祉室 市民活動課 市民活動係）

電 話：0155-65-4130 FAX：0155-23-0156

メー ル：active@city.obihiro.hokkaido.jp